

# こころる便り

第253号

令和3年4月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二  
株式会社 新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kininami@shingu.co.jp  
電話 079-1-75-1212



新宮運送ホームページ

## 波がある

今年も桜は変わらずに咲きました。大自然の流れは全く変わりませんが、万物の霊長と言われる人間界の動きは止まったままです。

「天行健なり」という私にとって大事にしてきた言葉があります。宇宙の営みは止まることなく確実に動いていく。大自然の流れに沿った生き方をすれば、本来、事故は起きないのだということを感じてくれた言葉です。

厳しい冬の寒さのあとには、必ず春がやってくるといふことです。その順番が変わるわけでもなく、川の水が上流に流れていくわけでもありません。雨はいつも空から降ってくるし、桜は毎年咲くのです。

しかし、人間は、目の前に起きた現象で都合が良ければ喜び、不都合ならば悲しみ、いろんなことに向き合っては悩み、苦しんでいきます。そこにも、大自然の流れというものがあるのだと思うのです。

「禍福はあざなえる縄の如し」と言われるように、良いことばかりを願っていても必ず悪いことがやってくるようになっていきます。

海岸に打ち寄せる波のように物事を捉えてみると、良いことが起きて高い波が来たなら、次は良くないことが来るからとしっかりと備えていくことで自分が振り回される幅が少なくなると思うのです。もちろん、人間ですから感情にも振り

回されていきますが、必要以上に動揺したり、どうすればいいかわからないとパニックになることを減らすことが出来ると思うのです。

コロナ禍という現象が、人間を不安に陥れしていきます。自信を失い、迷う心に歯止めをかけることは誰にもできません。

自分がしっかりと立ち向かう心を養うことしかなないので。良いことが来たら、次は・・・と準備することで、足元を少し固めることが出来る。何度も繰り返し返していくことで、心の準備が整うようになるのです。

毎日の仕事の中で打ち寄せる波のように、繰り返し返していくことで習慣となれば基礎は出来上がるはずで。

良いことのあとには悪いことが来るとするならば、あまりよくないことが起きたら、次は・・・と思えるようになれば、達人の域へと向かっていると思えます。

明けない夜はありません。必ず、輝く朝日が東の空から昇る清々しい日々がやってきます。

元氣に、にこやかに、まいりましょう。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

## 尋常小學校修身書 卷六 兒童用

### 第十三課 共同

久留米の東、筑後川に沿った地方では、水が近くにありながら、川底が深く流が急なために、灌漑の便利が悪くて作物が出来ず、人々が大変困っていました。

今から二百六十年ばかり前に、此の地方に栗林次兵衛・本松平右衛門・山下助左衛門・重富平左衛門・猪山作之丞といふ五人の庄屋がありました。五人は村々の困難をどうかして救ふ方法はあるまいかと、いろいろ相談し合ひ、十分測量もした上で、遂に筑後川に大きな堰を設け、掘割を作つて、水を引くより外はないと決しました。しかし、これは今まで誰も企てたことのない大工事であるから、久留米藩の許を受けるのは、なかなか容易ではあるまいと思つたので、「我々が一旦かく思ひ立つた以上は、どんな事があつても生死を共にして、きつとこの企を成就しよう。」と、互に堅く誓ひました。他の庄屋たちがこの企を聞いて、中には仲間に入りたく申し込む者もありましたが、五人は「この大工事が成就しなかつたら、これを企てた我々は一命を捨てねばならぬかも知れない。むやみに人を仲間に入れて迷惑をかけてはならない。」と言つてことわりました。しかし、だん／＼話をきいて、その庄屋たちの志の堅いのを知り、仲間入をさせ、一しよになつて工事の許可を願ひ出しました。

久留米藩では、かやうな大工事はとても成し遂げることは出来まいと思つたので、なか／＼許しませんでした。その上、この計畫の水路に當つてゐる村々の庄屋の中には、「この堰を作ると洪水の際に危険である。」と言つて反對する者も出て来ました。五人の庄屋は度々藩の役所に出て、計畫の確であることを一同熱心に説きました。藩の役人は五人に向ひ、「もし計畫通りに行かなかつたら、お前方はどうするか。」ときき、ますと、「その場合には私共五人が責を負うて、どんな重い刑罰でも快くお受けいたします。」と答へました。そこで役人も五人の決心の堅いのを感じ、とう／＼その願を許しました。

(つづく)